

## 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会 第16回幹事会議事録

- ・日時：平成20年10月2日（木）10:10～12:00
- ・場所：名鉄西尾駅 会議室
- ・出席：（自治体）西尾市 増山企画課長、谷崎主事  
蒲郡市 市川企画部次長兼企画広報課長、川畑主事  
吉良町 近藤企画課長、伴野課長補佐  
幡豆町 深谷企画課長、志賀課長補佐  
（名 鉄） 東部支配人室 三浦支配人、石川総務課長、近藤営業課長、  
下田専任調査役、山田西尾駅長  
企画管理部 石田企画課長、牧野課長補佐

### 〔発言要旨〕

#### （名鉄）

- 前回までの幹事会で名鉄への要望としていただいた件及び前回幹事会で市民からの要望として西尾市からいただいた件について、当社としては次のとおり考えており、ご理解願いたい。
  - ・ 終電の延長運転について  
当区間の利用状況を見た場合、利用実績が乏しく、費用対効果の観点からも、現時点でのその実施は困難と判断している。
  - ・ 運転本数の増加について  
ラッシュ時間帯での運転本数の増加は、保有車両や運転要員に限りがあり、現時点では、その実現は困難と判断している。  
一方、昼間帯においては、折り返し時間を短縮すれば、現在保有する車両で運転本数の増加を図ることは、理論的に可能ではある。しかしこの場合でも、運転要員の確保が必要になることに加え、パターン化した分かりやすいダイヤ設定とはなくなるという大きな問題がある。  
いずれにせよ、運転本数の増加には、それに伴う費用増が発生することから、現在の利用状況では、費用対効果の観点でも、その実施は困難と判断している。
  - ・ パノラマカーなどの動態保存について  
7000系（パノラマカー）などの旧式車両は、補修用部品の調達が困難であり、整備に要するコストも新型車両と比べて大きく、また電力消費量も最新車両の倍以上かかることから、環境対策の面でも車両更新が必要と判断している。  
よって、パノラマカーの動態保存は、その実施は困難と判断している。
  - ・ 蒲郡駅でのJRとの接続改善について  
蒲郡駅におけるJR線との接続改善については、可能な範囲で調整をしており、平成19年6月のダイヤ改正でも発車時刻の変更を行ったところであり、今後も、旅客利便性の確保の観点から、可能な限りの調整を図りたいと考えている。  
一方で、吉良吉田駅での西尾線との接続など、勘案すべき条件が複数あり、全ての列車をJR線の時刻と合わせることは困難とも考えている。

- ・ 上下分離方式の検討について
 

他地域では、存続困難となった鉄道路線について、沿線自治体を中心となり地域交通体系としての位置づけの明確化を図り、その必要性を認めた場合には、上下分離方式などの手法を用い、存続を図った事例がある。

こうした事例については、それぞれの沿線自治体で検討を重ねられ、鉄道の必要性を認識された上で実施されたものであることから、この地域においても、沿線自治体による主体的なご検討をいただきたいと考えている。
- ・ サイクルトレインの実施について
 

サイクルトレインは、平成19年3月1日から同年5月31日までの92日間で試行実施したが、ご利用者数は延べ34組60名に留まった。

また、乗降車口を一箇所に限定する当社の運営形態の中でサイクルトレインを実施するには、利用者に自転車を押して電車内を移動いただく必要がある。この前提で、事業者には課せられた最大の使命である安全輸送を達成するには、試行実施時と同様、係員の添乗が不可欠であるため、費用対効果の観点からも、その実施は困難と判断している。
- ・ 観光路線としての活用について
 

鉄道とは、大量輸送においてこそ、その特性を発揮できるものであり、民間事業者である当社が、観光路線として維持し続けることは困難と判断している。
- ・ 7700系を活用した指定席車導入について
 

当社の特別車両料金は、特別車両に乗車する対価として収受するものであり、座席を指定する対価としての設定ではなく、7700系車両については、これらの前提にそぐわないと判断している。

また7700系は、三河線ワンマン車両として活用しており、他用途に転用する場合には代替車両が必要となるため、この点からも実現は困難と判断している。

#### (蒲郡市)

- 協議会の発足からこれまで、3年間にわたってさまざまな利用促進策を講じてきたが、根本的な問題が解決されていない。利用者のうち半数を占める通学定期利用者は、今後減少することが間違いなく、状況は非常に厳しい。
- いずれ廃止になってしまうのではという不安が住民にある中では、他地域における鉄道再生の事例をして考えるべきだという意見が出てくるのも当然だ。
- その一方で、名鉄が運営しても維持が困難であるとするものを、自治体が担うのも難しいだろう。いろいろな選択肢がある中で、名鉄としてどのように考えるのか、また市としてもどのように考えるのか、ということであろう。
- 市長も、事あるごとに公立病院と名鉄の存続問題について発言しており、市議会の一般質問でも、この問題について発言があった。
- 来年度の利用促進に向けて学校を通じて調査したところ、来年度、新たに蒲郡線を利用する通学需要として250名程度が見込めそうだ。しかし、路線の存続に関して心配する声があがっているのも事実だ。
- 西尾方面へ通う高校生も多く、また鉄道廃止となれば、地価の低下や産業の衰退といった問題も発生するであろうし、一度廃止したものを復活させるのも困難だろう。こうしたことからしても、バスへの転換は難しいのではないかと。

#### (西尾市)

- 内容は別として、市民からの要望に対し丁寧に回答いただいたことには感謝したい。
- 市としては、駅利便性の向上のため、公費を投入して名鉄敷地内へトイレや駐輪場の整備を行ってきている。現在は、桜町前駅でのトイレや駐輪場整備を進めており、また来年度には福地駅でも同様な整備が行えないかと考えている。これら施策は、鉄道を公共交通機関として捉えて実施をしてきているものであり、整備に際しては、その用地の取扱いについて、特段の配慮を求めたい。

#### (吉良町)

- 利用促進に向けた住民団体が、正式に発足した。今後、集会を開催する予定であり、内容などが固まった段階で、改めて報告したい。
- 沿線自治体の 2 市 2 町では、各市町の広報誌に他自治体のイベント情報を掲載し、鉄道利用促進に努めている。
- 吉良吉田駅の周辺で、駐輪場の建設計画を立てている。最近、同駅前の売店が撤去されたが、その跡地も含め、駐輪場用地として検討していきたいと思っているので、改めて相談させてもらいたい。

#### (幡豆町)

- 町としても、沿線 2 市 2 町によるイベント情報に加え、昨年度に駅前整備を行った三河鳥羽駅での清掃活動の様子を広報誌に掲載したが、こうした長い視点で捉えた利用促進事業を展開している。
- 共同の西幡豆駅トイレの水洗化の要望が住民から出ており、その用地の取扱いには、西尾市と同様、特段の配慮をお願いしたい。
- 町制 80 周年記念事業として、作家の宗田 理氏による名鉄蒲郡線応援小説『ミカワエクスプレス スーパーマウス J の冒険』が、去る 9 月 25 日に中日新聞社から発刊された。これを受けて全国から応援メッセージが届いており、蒲郡線に期待する声があることを認知していただきたい。

#### (名鉄)

- 来る 10 月 15 日 (水) 14 時 30 分より、西尾市役所において、第 3 回対策協議会を開催する。また、同会議には、国土交通省中部運輸局及び愛知県に、オブザーバーとして同席いただく予定である。なお、議題としては、西尾・蒲郡線 (西尾～蒲郡) の概況、幹事会での検討状況、今後の進め方、を予定している。
- 次回幹事会は、平成 20 年 11 月 6 日 (木) 10 時 10 分から、当会議室で開催する。

(以 上)